

日曜日、まず私たちは週のはじめに真の神様を礼拝します。コロナ禍が続く中で今週も守られますように。中高生ライングループに届く「リジョイス・いのちのパン」を朝一番にいただきながらお互いのことを覚えてお祈りしましょう。では今朝のメッセージです。

「主がわたしたちと共に！」

聖書「主が我々と共におられる。彼らを恐れてはならない」(民数記 14 章9節後半)

私たちには、「わあ！これはどうしたらいいんだ！ピンチだ！」と思うことが起こります。ちょうど今、あなたはそう思っているかもしれません。でも、聖書からのメッセージを心の耳で聴くと神さまが私たちを助け導いてくださることがよくわかります。

旧約聖書、「創世記」(アダム、ノア、アブラハム)、出エジプト記(モーセ)と進み、民数記まできました。エジプトを脱出したイスラエル人たちが約束の地、今はパレスチナと呼ばれています「カナン」にもうすぐ入れるという時、その土地を偵察に行った時のお話です(民数記13~14章)。そこは「乳と蜜の流れる地」といわれる神さまがご用意くださる土地でした。

カナンを実際に見て帰ってきた偵察隊 12 人のうち 10 人は「美味しいぶどうや果物もあるけれど、強い男たちが住んでいる。私たちは負けてしまうだろう・・・」と報告しました。ところが、ヨシュアとカレブは違いました。「主が私たちと一緒にいるのだからこわがることはない」と。

さて、もし自分が偵察隊の一人だったら、なんと報告するでしょうか？ 偵察隊の10人は「私たちは弱くからダメだ。モーセに逆らって別のリーダーを立ててエジプトに帰ろう」とまで思っていましたね(14:4)。ヨシュアたちのように「主と一緒にいるから大丈夫」と思えますか？

イスラエルの人たちは、神さまに信頼できませんでした。その結果、約束の地へと入れず厳しい荒れ野でなんと 40 年もの長い間、放浪することになってしまったのです。背いた人々はみな荒れ野で死んでしまいました。

学校で、家で、「ピンチだ！これからどの道を選び進んでいったらよいのだろう？」と思うような出来事が起こってくる時、私たちはどうするでしょうか？ 10 人のように？ それともヨシュアたちのように？ 10 人は一緒にいてくださる主を忘れて背いてしまいました。ヨシュアたちは「自分たちの力だけではダメだ。とても勝てるような相手ではない。それでも主と一緒にいてくださるのなら大丈夫。」と信頼して進もうと報告しました。

旧約聖書の「主」はイエスさまでもありました。「インマヌエル」という言葉があります。この言葉はクリスマスの時によく聞きますね。「インマヌエル 神われらと共にいます」。そうです。今この時も、私たちと一緒に救い主イエスさま、「主」が共におられるのです。

「私は世の終わりまでいつもあなたがたと共にいます」(マタイ 28:20)。私たちと共におられるお方は罪からの救い主、十字架で死を滅ぼし、三日目に復活され、今も生きて働いておられる主、イエスさまです。今週どんな出来事が起こっても。たとえ「これはピンチだ！」と思っても「主と共にいます」を忘れないように心から祈り、私たちの「主なるイエスさま」に信頼して自分の道を選び進んでいきましょう。

「神さま、今週も主が共にいてくださることを感謝します。聖霊の恵みによって毎日祈り、主を信頼して自分の道を歩むことができますように。家族や友だちもお守りください」 (熊田なみ子)